

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

蜀素帖 米芾



- 1、字句「皎々中」天月
- 2、形式「半紙タテ使用。右に「皎々中」、左に「天月」と三行に臨書し、余白に落款「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観「今回の課題もそうだが米芾の書には線の強弱が顕著に見られる。このように強弱が極端に表出されるのは用筆法にもよるのだが、筆が大いに関係しているように思われる。  
米芾がどのような筆を用いたのかは定かではないが、思うにこれを書いた筆は鋒先が短く、鋒先の利く(弾力を有す)筆ではないかと思われる。このような筆は、引き上げればすぐ細線となり、押せばゆったりとした膨やかな線を表出することができる。  
米芾が蜀素に書きあげたことについては、用筆法もさることながら筆の質・形状を考察するのも必要かと。
- 4、各字のポイント
  - 皎 二画目起筆でしっかり筆を突き送筆で引き上げる。三画目鋒先で入筆し、転折でやはり筆を突きそのまま縦画。旁は押す線で推移。収画は中程まで押してゆき、後引き上げる。
  - 中 「口」は下すばまりに。長縦画は上部長く出し、徐々に筆を引き上げる。
  - 天 一、二画の横画は細線で、左右の払い筆圧加えて。
  - 月 二画目の縦画下部右に開く。

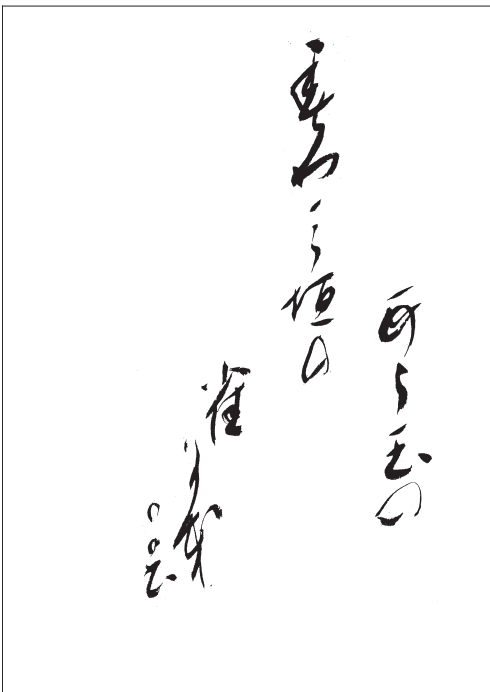
半紙課題(予告) (二月二十二日締切)

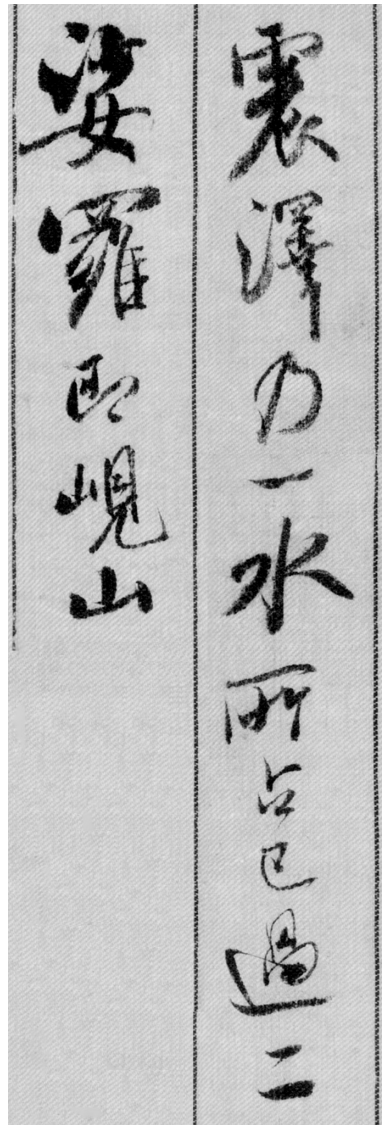


平岡華雪先生書 来者は猶追う可し(論語)

訳：(過ぎ去ったことは改めようがないが)今からのことは間に合う。

平岡華雪先生書 あら玉の春や御垣の雀にも(北元)





震澤乃一水 所占已過二 娑羅即峴山  
震澤乃一水 所占已過二 娑羅即峴山  
震澤はひとつの湖であるが、二つ以上の地域にまたがっている。沙羅（龍腦）の木に似ているのが峴山で、

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。  
随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書（一月二十二日締切）

課題

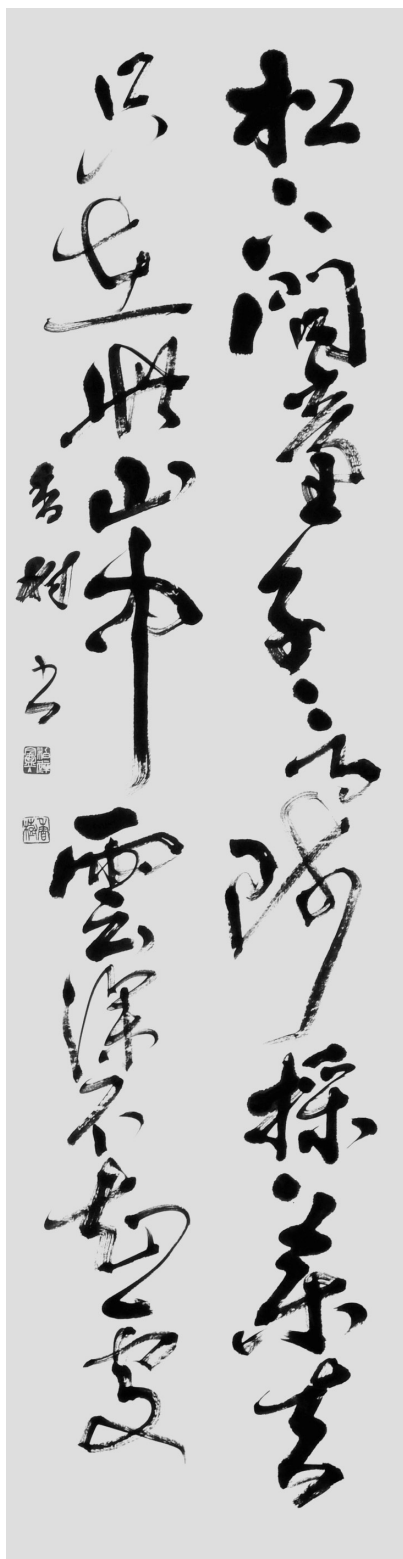
舞

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ・ヨコ自由
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に  
一字と記入 段級は無記入

A

高橋 香樹 会長 書

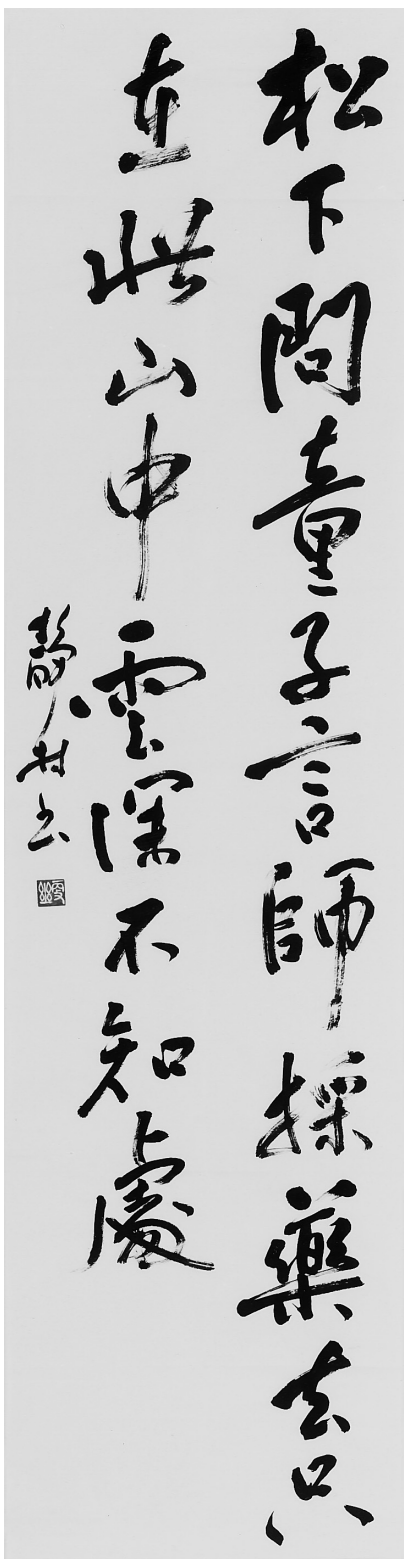
松下問童子 言師採藥去 只在此山中 雲深不知處 (賈島)  
松下童子に問う 言う師は薬を採りに去けりと 只だこの山中に在らん 雲深くして処を知らず



B

鈴木 静村 先生 書

作品の流れをより鮮明にとの気持ちで制作、流れをと思つたら、まず文字形を見てみよう。文字形が正方形、長方形のみになっていないか。そこに、三角形、台形、菱形などの形を加え流れを考えてみたい。一行目「童子言師」で大きく行を変化させている。二行目は右から左、また右へ左へとゆるやかな流れとした。墨継ぎは「探」と「山」。



墨継ぎの決まりはありませんが、ここでは葉・雲で継ぎ、松と合わせ潤筆の「三角法」を明示してポイント化。この手法は、七言一句の十四字の場合も同じで、表出の効果を高める一つとして意識的に実践してほしいと念じています。深の旁は、宋の書体が古典では多く使われていることから、これを導入しました。

訳：松の木の下で童に逢い、先生はと聞くと、「先生は薬草を採りに行かれました」という。きっとこの山の中だろうが、雲が深くて行方がわからない。

予告 (二月二十二日締切)

寄語大鵬天大翼

南冥有樹可棲無 (頼山陽)

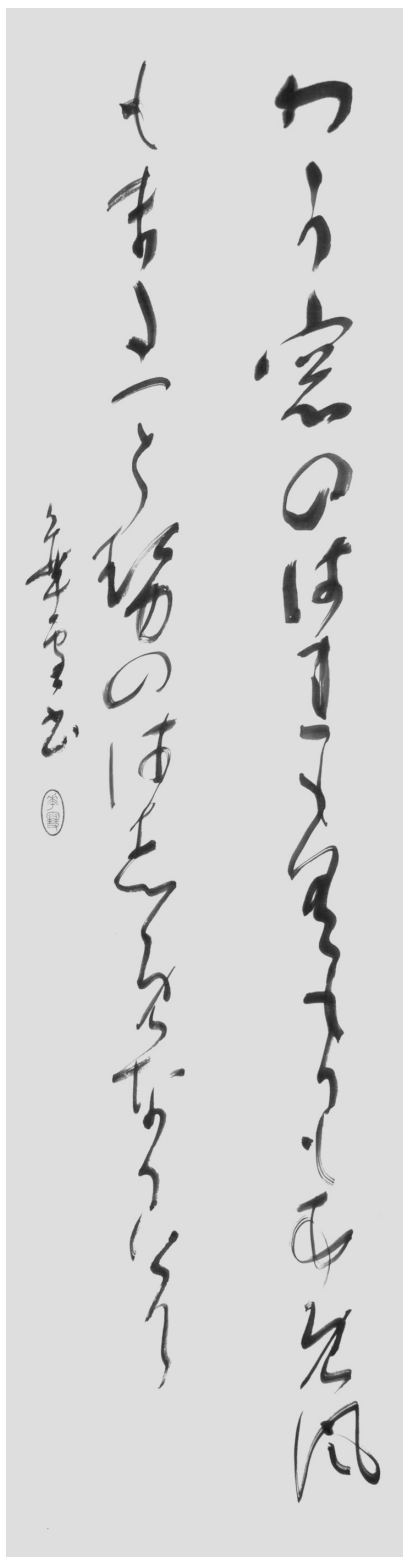
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

わが窓の晴もくもりもあめかぜもまた一年のはじめなりけり(清水比庵)  
わが窓のは連れも具もりもあ免風もま多一と勢のは志免なりけり



B

青柳香竹先生書

わが窓のはれも俱もり愛あ免風毛満た一と勢能者しめ奈利介り



学び方

今月の華雪先生の書は潤筆で単体のリズムにのって書き始めています。流れる連綿体でやわらかな表情が出た作品です。今回は連綿で始まり一行目は渴筆で放ち書きにし、ゆったり書きました。終句は墨を加えて変化もつけてみました。「も」が四ヶ所あります。工夫して書いてほしいです。渴筆は筆力をゆるめず最後まで書ききること。潤筆、渴筆を駆使し趣きのある作品を心がけて下さい。

予告 (二月二十二日締切)

春の夜の夢のうき橋とだえして峰にわかる、横雲の空 (新古今和歌集)

清水比庵 明治十六年  
(昭和五十年、岡山県高梁市生まれ)

日本の歌人・書家・画家・政治家。歌誌「二荒」創刊。一九五八年日光市名誉市民となる。一九六六年宮中歌会始めの召人となり、御題は「声」であった。一九六八年歌誌「窓日」主宰。一九七一年高梁市名誉市民となる。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条 幅 部 随 意 参 考

路川千曄先生書

寛著庭除貪貯月 少栽竹樹要觀山（眞山民）  
 寛かんに庭除ていじよに著つけ月つきを貯たくわうるを貪むさほり、少すこしく竹樹ちくじゆを栽うえて山やまを觀みるを要ようす。

寛著庭除貪貯月 少栽竹樹要觀山 千曄

訳：寛やかに庭内に着けて月を貯蔵しようと欲ばり、少しく竹を栽え立てて山を見ようと願う。

北島菁丘先生書

君がため移して植うる呉竹にちよも籠れる心地こそすれ（後撰和歌集 藤原清正）  
 君かがため移ためてうゝる呉竹にちよも籠これる心地こそすれ（後撰和歌集 藤原清正）

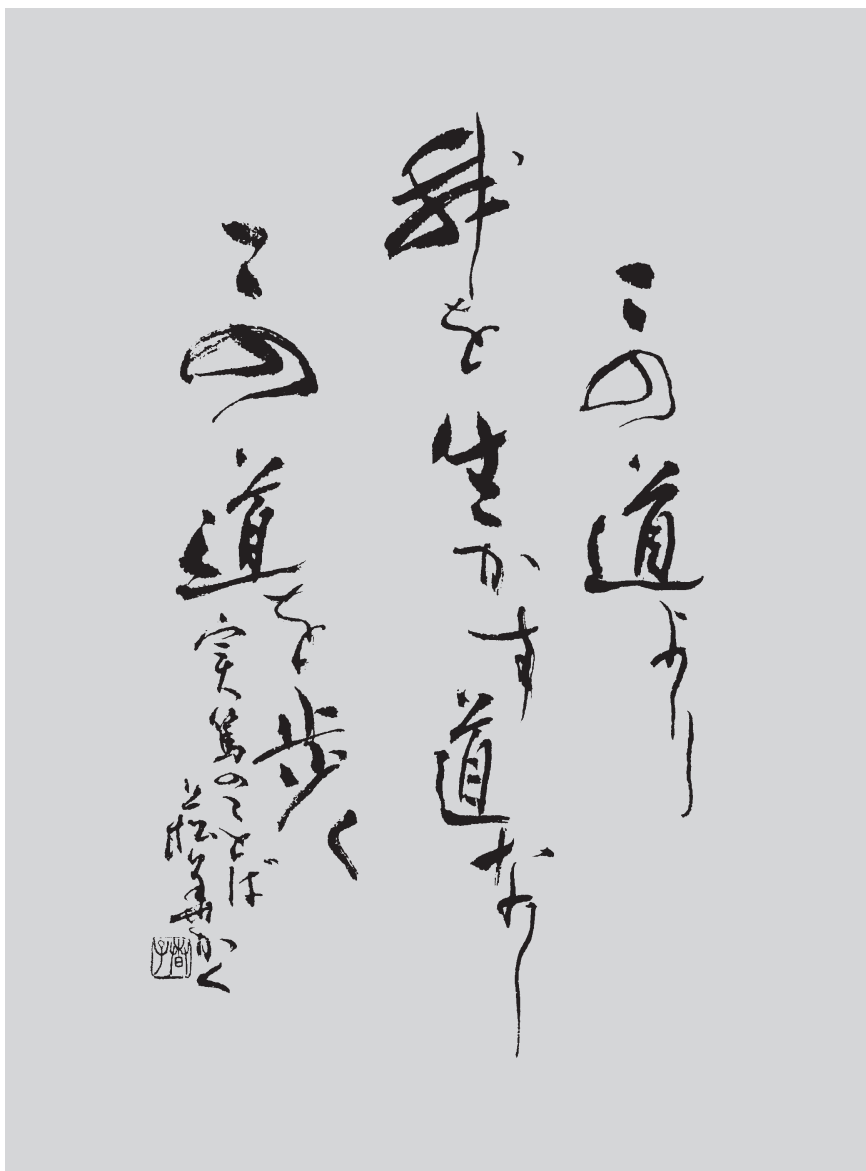
君がため移して植うる呉竹にちよも籠れる心地こそすれ  
 千代もなほ心地こそすれ

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

小暮 菘華 先生 書

この道より我を生かす道  
なし  
この道歩く  
実篤のことば

多くの人が実篤のことばを書いています。展覧会でもよく見かけます。書き易いようで、いざ書くとなると難しい。繰り返しのことばを噛みしめるように、表現を変えてみました。皆さんもそれぞれ、工夫してみてください。



武者小路実篤(本名)一八八五〜一九七六  
小説家・詩人・画家。東京生まれ。東大中退。一九一〇年、志賀直哉らと「白樺」を創刊。大胆な個人主義を主張。のち調和的社会主义の実現を目指して「新しき村」を興す。  
独特な口語文体で個人や人間生命を賛美する多くの小説、戯曲を発表。小説「お目出たき人」「真理先生」「友情」など。人生を考え、仕事に悩み、心を奮い立たせたり、癒やしたいとき、心を支える「名言」多数。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

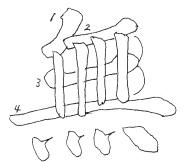
硯田悪歳無し(唐庚)

訳：同じ田といっても硯の田には飢饉はない。



〔田〕字について

画数の少ない「田」は、全体の調和のうえでの注目点。ために起筆、転折を強く力感的に表出、字間とり方にも工夫が必須です。

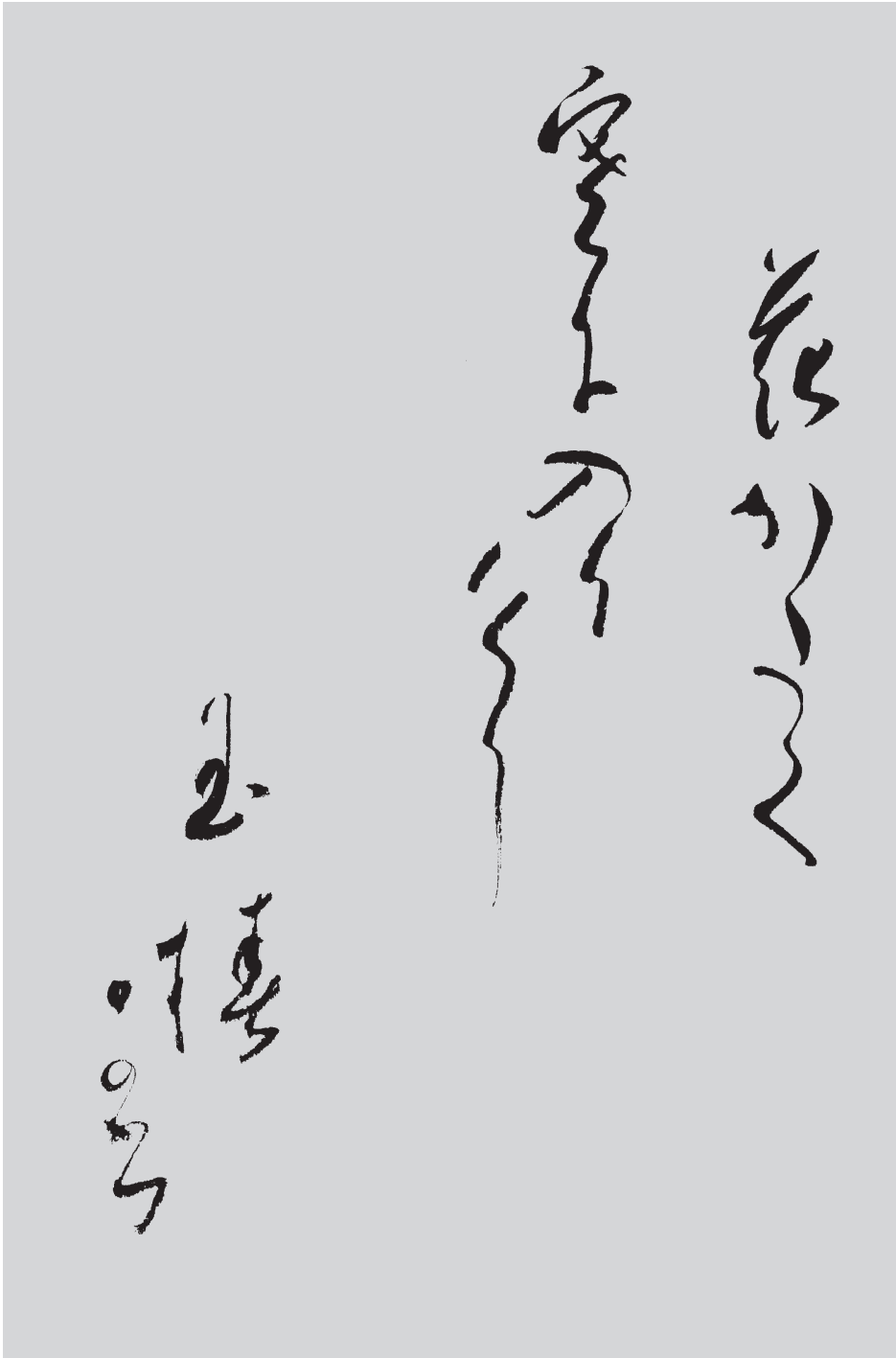


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

花かたく寒に入りけり玉椿(冥々)  
花か多<sup>たく</sup>久寒<sup>に</sup>尔<sup>に</sup>入り<sup>けり</sup>玉椿



〈基礎的な用筆のこと〉  
「か多久」、「か」の末筆からのつづけ方は基礎的用筆の一つ、「速さ」と「抑揚」をどう導入するか。これがポイントです。また、「尔」から「入り入り」は、運筆のクイックを覚えると、線が活性されてきます。特に、初歩段階の取り組み者へ――。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

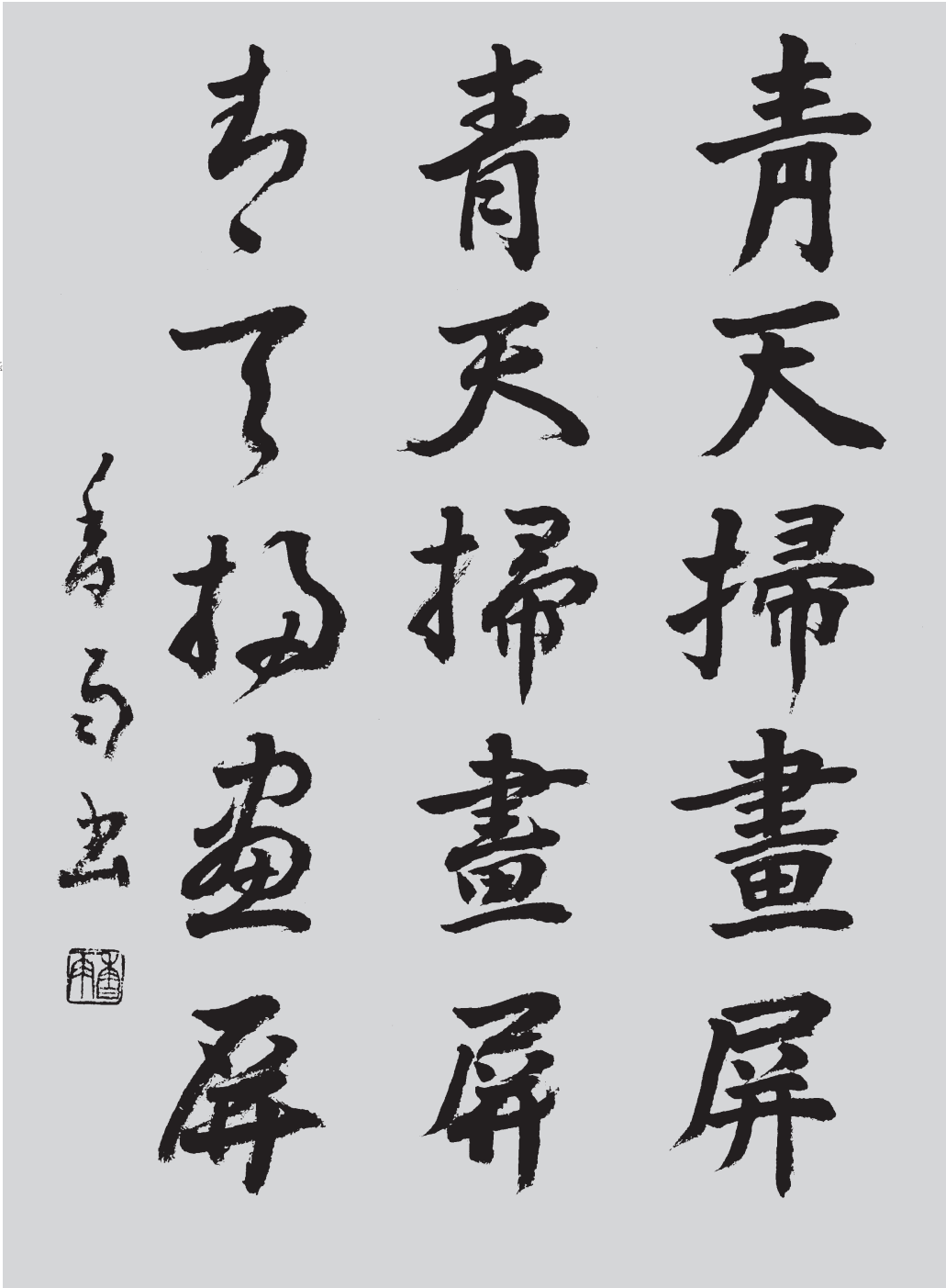
①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。



楷、行、草、三 体 参 考

酒井香雨先生書

青天掃畫屏(李白)  
青天画屏を掃う



訳：青空のキャンバスに、美しい屏風を画き出したよう。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随意部参考

町田煌月先生書

養其神（法天生會）  
其神を養う。



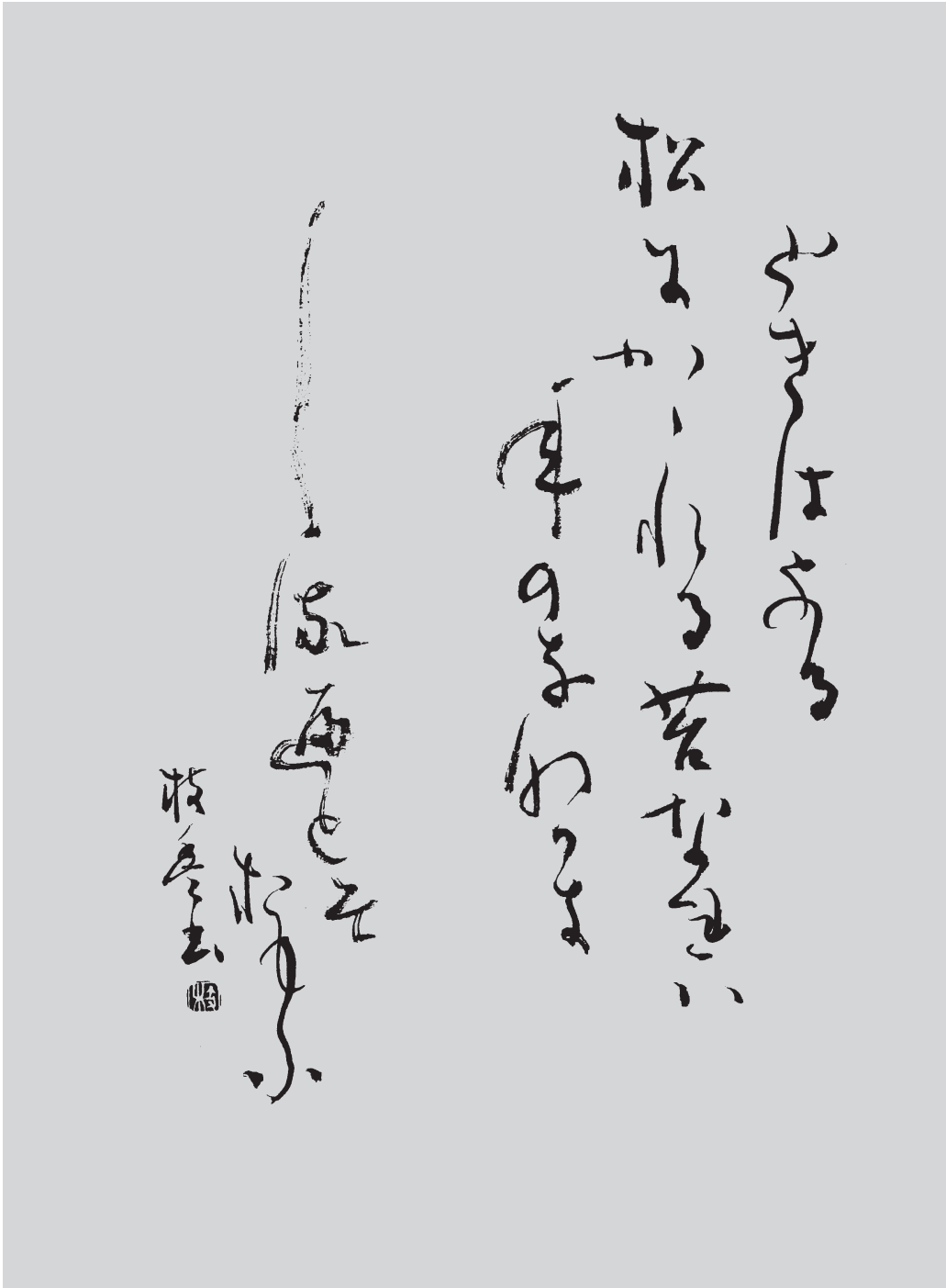
訳：其精神を長養させること。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

鈴木枝豊先生書

ときはなる松にかゝれる苔なれば年のをながきしるべとぞ(おもひ)思(おもひ)  
ときは奈る松るかゝれる苔な連八年のを那可支し流遍とそ於もふ  
(新古今和歌集 読人しらず)



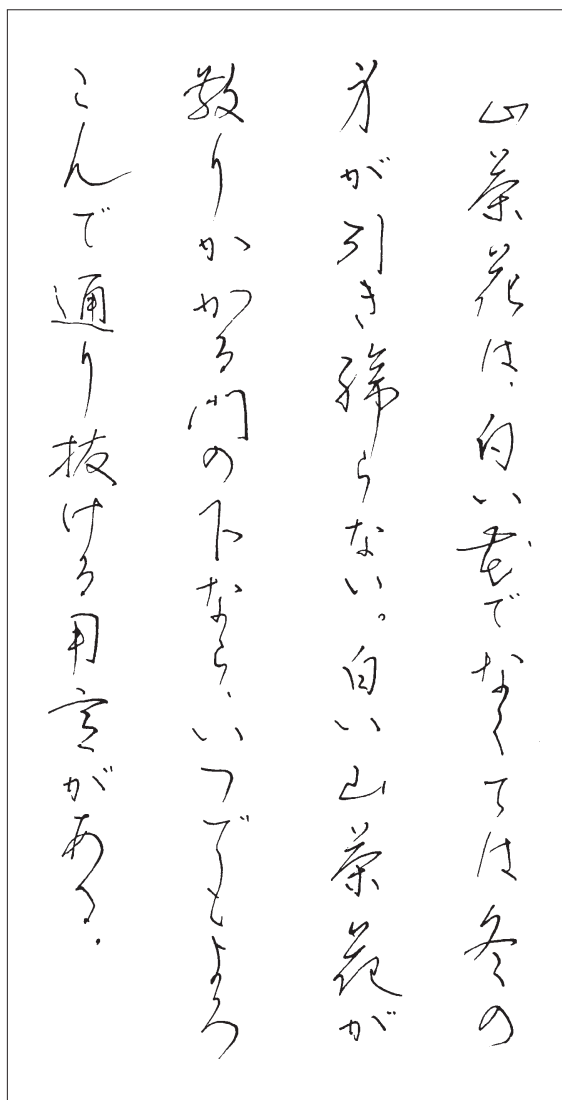
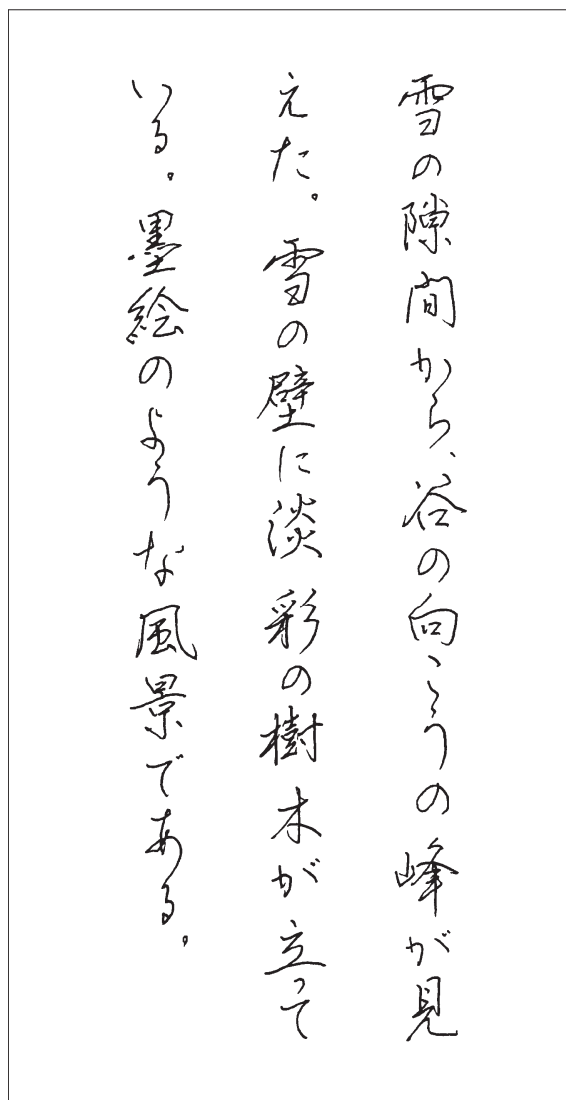
1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円

川上香蓉先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

山茶花は、白い花でなくては冬的身が引き締らない。白い山茶花が散りかかる門の下なら、いつでもよるこんで通り抜ける用意がある。

「花ごよみ」杉本秀太郎

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2 (初段階以下)

雪の隙間から、谷の向こうの峰が見えた。雪の壁に淡彩の樹木が立っている。墨絵のような風景である。

「日高」立松和平